

過ぎない時間

村上英明

愚痴を言う時期は過ぎたと背を向けて透析室の扉を開く

寝転んで命を貰う病める者透析室に三十五人

あぐらかく透析室の常連の笑顔に宿る観音菩薩

透析のあと一時間の長きかな百を何回数えればいい

もう少しもう少しだからと言い聞かす透析室の過ぎない時間

週三日透析に命を貰いつつ来春の種二人で植える

透析が終わってついたため息は現実社会へ踏み出す合図

看護師の「お疲れさま」に送られて透析終えるまた明後日

透析で命をつなぎ折れかけた心は妻の言葉でつなく

妻の背に行ってきますと声かけるいつしか仕事になった透析